

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2015年20週 (5月2週 5/11~5/17)

2015年4月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染症法施行規則の一部改正について、デング熱・チクングニア熱、HIV検査普及週間、集団かぜの発生病原体検出情報
 定点医療機関コメント
 感染性胃腸炎、溶血性レンサ球菌感染症、インフルエンザ、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(29)、腸管出血性大腸菌感染症(1)、A型肝炎(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(1)、クロイツフェルト・ヤコブ病(1)、後天性免疫不全症候群(1)、ジアルジア症(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(5)

2015年4月報

定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

インフルエンザ(図1) 【3月18日警報解除】

20週の定点当たり報告数は0.43、19週134人、20週84人(0.63倍)です。2014/2015シーズンに病原体定点等から寄せられた検体よりA型(AH3)及びB型(ビクトリア系統、山形系統)インフルエンザウイルスが検出されています。

【参考ページ】愛知県の「インフルエンザ警報」を解除します(愛知県)

<http://www.pref.aichi.jp/0000081499.html>

2014/15シーズンインフルエンザウイルス分離・検出情報

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infburri14_15.html

保健所別・定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数マップ

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infllu_map_new.html

インフルエンザ情報ポータルサイト(愛知県)

<http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/infllu/index.html>

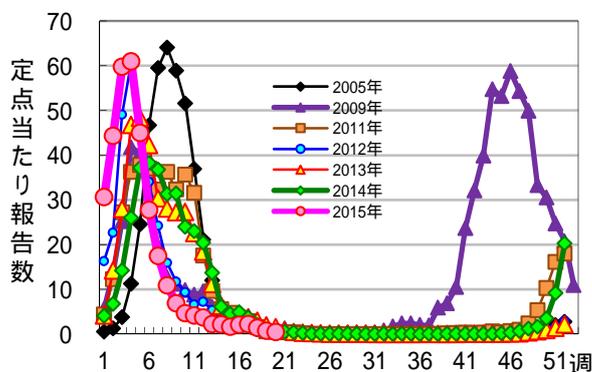


図1 インフルエンザ

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図2)

20週の定点当たり報告数は2.84、19週206人、20週517人(2.51倍)です。

【参考ページ】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html

感染症法(「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」)施行規則の一部改正について

平成27年5月21日から、「侵襲性髄膜炎菌感染症」及び「麻しん」を診断した場合は、患者の氏名、住所等を直ちに最寄りの保健所に届出を行うことになりました。また、「後天性免疫不全症候群」について、AIDSの診断の指標疾患について一部変更がありました。届出様式も変更されておりますので最新のものをお使いください。

【参考ページ】改正後の届出基準・届出様式等

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

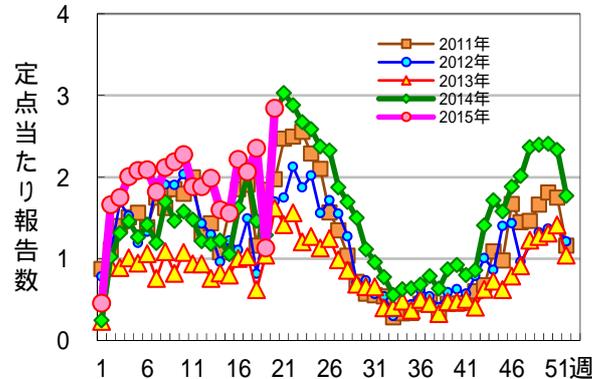


図2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

デング熱・チクングニア熱

デング熱の2015年20週までの累積報告数は5例、2014年総計は11例で、全て輸入感染症例でした。チクングニア熱は2013年に1例(輸入感染症例)報告されましたが、それ以降報告はありません。

平成27年4月28日より感染症法施行規則が一部改正され、蚊媒介性感染症に関する特定感染症予防指針が策定されました。

【参考ページ】デング熱について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html

デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き 地方公共団体向けについて(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000083959.html>

注意すべき蚊による感染症 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/mosquito.html>

HIV検査普及週間

6月1日から6月7日は「HIV検査普及週間」です。今年度も休日エイズ即日検査を実施します。

【参考ページ】平成27年度「HIV検査普及週間」について(愛知県) <http://www.pref.aichi.jp/0000082980.html>

集団かぜの発生(健康対策課発表)

発表日	管轄保健所	ネットあいち URL
5月18日	清須	集団かぜの発生について(2014-2015シーズン) http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/infllu/syuudankaze2.html http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/infllu/ichiran.pdf
5月19日	津島	

病原体検出情報 2015年疾患別ウイルス検出速報 (2015年5月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹・風疹
患者数	77	9	8	4	10	5	7	186	4(6)
CV-A6	-	2	-	-	-	-	-	-	-
CV-A10	-	-	3	-	-	-	-	-	-
FluAH3	-	-	-	-	-	-	1	133	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	13	-
HMPV	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Reo-2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	4	-	-	-	-	-	-	-	-
NV G I	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV GII	22	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	2	-	-	1	-	-	-	-	-
Ad-3	2	-	-	-	-	-	-	1	-
Ad-6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-41	3	-	-	-	-	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HSV-1	-	-	-	-	1	-	-	1	-
検査中	22	4	4	3	3	2	2	11	2(4)
陰性	24	3	1	-	6	3	3	28	2(1)

*インフルエンザは2014/2015シーズンの結果

**麻疹・風疹の()内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名(他の略名)

Ad: アデノウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、CV: コクサッキーウイルス(Cox.)、

FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、FluB: B型インフルエンザウイルス、

HMPV: ヒトメタニューモウイルス、HSV-1: 単純ヘルペスウイルス1型、NV: ノロウイルス、

Reo-2: レオウイルス2型、Rota A: ロタウイルスA

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

感染性胃腸炎が小流行
 【一宮市 後藤小児科医院】
 A群溶連菌7名でした。
 胃腸炎が大人、年長児が目立ちます。
 【犬山市 武内医院】
 溶連菌感染症が増加しています。
 インフルエンザB 1名
 【江南市 みやぐちこどもクリニック】

溶連菌、ヘルパンギーナ多い。
 アデノ感染症も増えてきました。
 【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
 26歳女 カンピロバクター検出
 50歳女 ロタウイルス(保育園の園児より感染
 です。)
 溶連菌、手足口病散発
 【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

胃腸炎が流行していました。
 【日進市 みやがわクリニック】
 溶連菌 21名
 ヘルパンギーナ 2名
 マイコプラズマ 3名
 【豊明市 こども元気クリニック】
 ヘルパンギーナ、水痘、溶連菌感染症等散発
 【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
 ロタ、アデノ、RSはコンスタントにいます。
 手足口病もでてきたようです。
 【春日井市 春日井市民病院】
 溶連菌、胃腸炎少々
 手足口病、ヘルパンギーナ増えてきました。
 【春日井市 朝宮こどもクリニック】

溶連菌感染症、ロタウイルス胃腸炎が目立ち
 ます。
 【小牧市 志水こどもクリニック】
 感染性胃腸炎はあいかわらずあります。
 【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
 溶連菌感染症 6人
 【半田市 ひいらぎこどもクリニック】
 3歳女 マイコプラズマ
 【大府市 まえはらこどもクリニック】
 感染性胃腸炎(特に嘔吐)が多かったです。
 ロタウイルス胃腸炎 1名(5歳)
 アデノウイルス感染症 1名(2歳)
 【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

StrepA(+) 7名
E. coli(O18)+カンピロバクター 12歳男
E. coli(O1)+カンピロバクター 6歳男
 カンピロバクター 9歳男
 【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
 11か月女 病原性大腸菌O1(+)VT(-)
 【岡崎市 にいのみ小児科】
 アデノ(+) 1歳男
 伝染性紅斑が散発
 【岡崎市 花田こどもクリニック】

インフルエンザB型 1名
 【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
 インフルエンザB型 1名
 【岡崎市 医療法人糸洲医院ともキッズクリニック】
 溶連菌感染症目立ちます。
 手足口病が散見されます。
 1歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)
 【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
 マイコプラズマ肺炎 5歳女
 【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

インフルエンザB型 2名
 【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
 6歳男 カンピロバクター腸炎
 【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

病原性大腸菌O8 7歳男
 【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2015年5月20日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun150521.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2015年20週報告数			2015年総計(1～20週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	13	3		256	60	65
豊田市				22	7	4
豊橋市	2		1	30	4	15
岡崎市				14	5	
一宮	1	1		39	13	9
瀬戸	1		1	48	9	22
半田	2			15	5	2
春日井				22	7	1
豊川				14	4	2
津島				31	5	8
西尾	1	1		12	5	2
江南	3	1	2	24	6	10
新城				9	2	5
知多				16	3	7
清須	1			12	5	3
衣浦東部	5	2		27	12	3
合計	29	8	4	591	152	158

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	津島	16歳	男	- / -	5 / 11	5 / 14	O26、VT1(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

A型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	豊田市	57歳	女	無	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	瀬戸	67歳	男	以前からの保菌	国内	無

クロイツフェルト・ヤコブ病（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型
1	名古屋市	74歳	男	古典型

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	40歳	男	AIDS	性的接触	国内

ジアルジア症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	名古屋市	35歳	男	インド

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	56歳	男	不明	国内
2	岡崎市	76歳	男	無	国内
3	岡崎市	1歳	男	有	国内
4	一宮	55歳	女	不明	国内
5	衣浦東部	42歳	女	無	国内

2015年4月報

(2015年5月18日現在、診断週に基づく集計)

4月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [()は無症状病原体保有者再掲。]

2014～2015年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数	2015年4月			2015年	2014年
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7) 発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (7) 結核	84 (22)	75 (21)	159 (43)	547 (146)	1,866 (531)
三類 (5) コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	10 (0)
腸管出血性大腸菌感染症	2 (1)	3 (1)	5 (2)	11 (3)	132 (30)
腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
四類 (43) E型肝炎	2	1	3	5	1
A型肝炎	1	0	1	2	8
コクシジオイデス症	0	0	0	1	0
つつが虫病	0	0	0	0	2
デング熱	0	0	0	5	11
マラリア	0	0	0	0	1
レジオネラ症	5	1	6	22	61
五類 (22) アメーバ赤痢	1	1	2	18	68
ウイルス性肝炎	2	0	2	4	13
内訳 B型	0	0	0	2	12
その他	2	0	2	2	1
カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症*	7	1	8	22	19
急性脳炎	3	0	3	15	18
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	2	3	11
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	1	3	18
後天性免疫不全症候群	3	6	9	37	98
内訳 無症候性キャリア	2	4	6	25	65
AIDS	1	2	3	11	32
その他	0	0	0	1	1
ジアルジア症	0	0	0	2	2
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	2	6	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	2
侵襲性肺炎球菌感染症	16	2	18	77	122
水痘(入院例に限る。)*	3	0	3	7	10
梅毒	1	7	8	22	113
内訳 無症候	1	2	3	7	50
早期顕症	0	5	5	12	57
晩期顕症	0	0	0	3	6
播種性クリプトコックス症*	1	0	1	5	2
破傷風	1	0	1	2	4
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1
風しん	0	1	1	9	21
麻しん	0	0	0	0	46
総 計	134	101	235	828	2,680

* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引き続き小児科定点把握対象疾患です。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

疾病名	2015年4月			2015年 累計		2014年 総計			
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県全体		愛知県全体			
				合計	合計	合計	合計		
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	男	26	32	58	255	471	900	1,591
		女	40	15	55	216	691	691	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	10	12	22	77	196	169	643
		女	9	14	23	119	474	474	
	尖圭コンジローマ	男	18	6	24	72	109	220	347
		女	7	3	10	37	109	127	
	淋菌感染症	男	8	19	27	151	169	577	657
		女	3	1	4	18	169	80	
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		77	6	83	332		1,090	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		3	0	3	41		59	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	0		4	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-	-		0	

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2015年4月			2015年 累計	2014年 総計
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	0	1

感染症の類型及び定義(感染症法)

2015年1月21日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症* (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起しうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症** (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2015年1月21日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」及び「鳥インフルエンザ(H7N9)」が二類感染症に追加されました。

** 2014年9月19日に「カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。

